

color

上越市環境色彩ガイドライン  
建築物の基調色



上越市

# 色の表示方法—三属性による表示

色にはさまざまな表し方があります。一般的には「赤」や「黄色」のように色名で表す方法が普及していますが、赤にも朱色に近い赤や鉄さびのようなくすんだ赤があるように、ひとつの色彩を正確に表すためには、色名よりも精度の高い尺度を用いる必要があります。

上越市の景観づくりにあたっては、色彩を表す尺度として、JIS(日本工業規格)によって規定され、国際的に広く普及している三属性による色の表示(マンセル表色系)を用いています。

## マンセル表色系のしくみ

マンセル表色系は、1905年アメリカのアルバート・マンセル氏が考案したもので、物体表面の色彩を「色相」、「明度」、「彩度」という3つの属性によって表す色彩の表示体系です。

### ①色相

色合いの違いを「色相」として表します。色相は、R(赤)、YR(黄赤)、Y(黄)、GY(黄緑)、G(緑)、BG(青緑)、B(青)、PB(青紫)、P(紫)、RP(赤紫)の10色相の頭文字と、その変化を表す0から10までの数字を組み合わせる用います。

上越市の建築物等は、YR(黄赤)、Y(黄)など、暖色系と呼ばれる暖かみのある色相を基調としたものがほとんどです。

### ②明度

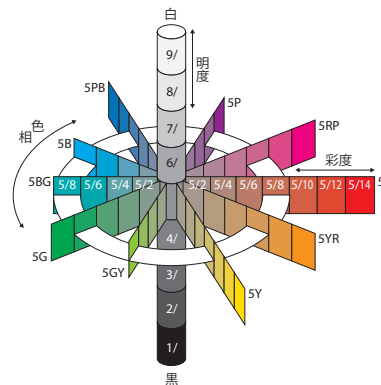
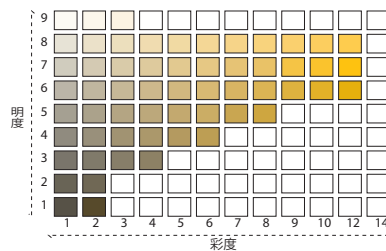
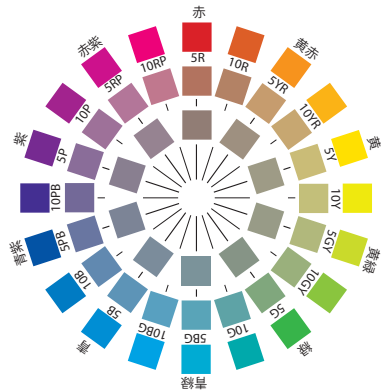
色彩の明るさの度合いを「明度」として表します。0から10までの数字を用い、明るい色彩ほど数値が大きくなります。色味のない無彩色はN5.5などのように最初にニュートラルの意味を表すNをつけて明るさの度合いだけで色彩を表します。

上越市では白や黒など極端に明るい色彩、暗い色彩は少なく、落ち着いた中庸の明るさの色彩が多くなっています。

### ③彩度

色彩の鮮やかさの度合いを「彩度」として表します。鮮やかな色彩ほど数値が大きくなりますが、最大の数値は色相によって異なります。

上越市の建築物等は、全般的に鮮やかさを抑えた落ち着いた色彩が基調となっており、上越の海や山など豊かな自然の色合いをよりいっそう引き立てる役割を果たしています。



## マンセル記号

3つの属性の尺度を、色相、明度、彩度の順に並べたものがマンセル記号です。下の色は次のように表し、「10ワイアール、8.0の1.5」と読みます。

**10YR 8.0 / 1.5**

色相 = 色あい    明度 = 明るさ    彩度 = 鮮やかさ  
10ワイアール    8.0    1.5

# みなさんの家や看板の色も上越の風景のひとつまになります

## みなさんの家や看板の色は上越のまちに似合っていますか？

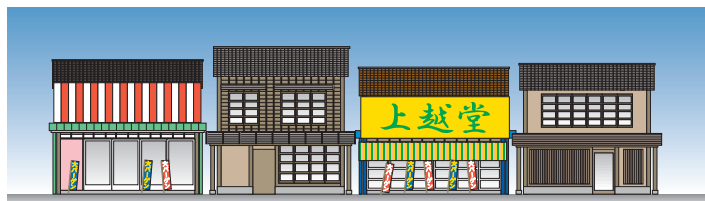
上越のまちなみは暖かみのある穏やかな色調がベースとなっています。だからこそ身近なところにある豊かな自然の彩りが、よりいっそう美しく冴えて見えるのです。建築物等の色彩を考える際には周囲で使われている色の特徴をつかみ、周辺と違和感のない色で建物と建物のつながりをつくっていくことが大切です。

### 大通り沿いなどの色彩景観づくり例



派手な色彩を多用すると景観が混乱してしまいます。目立つことばかりでなく周辺との調和に配慮し、まちなみ全体の魅力が高まるように、色彩を工夫しましょう。

### 商店街などの色彩景観づくり例



派手な色が無秩序に並ぶよりも、色彩や形に工夫をして、共通性や連続性が感じられるまちなみの方が魅力的です。建築物や広告物の色彩は、落ち着いたものを基本とします。



# 景観形成のための環境色彩基準

市では、調和のとれた美しい景観を守り育てていくために、建築物等を新築または改築する際に基調色として避けていただきたい色彩の範囲を以下のように定め、市民や事業者の皆様にご協力をお願いします。

景観法に基づく届出・通知が必要な案件については、建築物の主要な外観となる外壁・屋根の色は下表の範囲を超えないように計画してください。

色相	1.25R 6.24R	6.25R 8.74R	8.75R 1.24YR	1.25YR 3.74YR	3.75YR 6.24YR	6.25YR 8.74YR	8.75YR 1.24Y	1.25Y 3.74Y	3.75Y 8.74Y	8.75Y 1.24GY	1.25GY 3.74GY	3.75GY 6.24GY	6.25GY 1.24B	1.25B 6.24B	6.25B 8.74B	8.75B 1.24PB	1.25PB 3.74PB	3.75PB 6.24PB	6.25PB 1.24P	1.25P 6.74P	6.75P 3.74RP	3.75RP 1.24R
明度 8.0 以上の 場合の彩度値	1.25 以上の 色彩	1.25 以上の 色彩	1.75 以上の 色彩	2.25 以上の 色彩	3.5 以上の 色彩	3.5 以上の 色彩	3.5 以上の 色彩	2.75 以上の 色彩	1.75 以上の 色彩	1.75 以上の 色彩	1.25 以上の 色彩	1.25 以上の 色彩	1.25 以上の 色彩	1.25 以上の 色彩	1.25 以上の 色彩	1.25 以上の 色彩	1.25 以上の 色彩	1.25 以上の 色彩	1.25 以上の 色彩	1.25 以上の 色彩	1.25 以上の 色彩	1.25 以上の 色彩
明度 5.0 以上 8.0 未満 の場合の彩度値	2.25 以上の 色彩	4.5 以上の 色彩	4.5 以上の 色彩	4.5 以上の 色彩	5.5 以上の 色彩	5.5 以上の 色彩	5.5 以上の 色彩	4.5 以上の 色彩	2.75 以上の 色彩	2.25 以上の 色彩	1.75 以上の 色彩	1.75 以上の 色彩	1.25 以上の 色彩	1.75 以上の 色彩	2.25 以上の 色彩	2.25 以上の 色彩	3.5 以上の 色彩	2.25 以上の 色彩	1.75 以上の 色彩	1.75 以上の 色彩	1.25 以上の 色彩	2.25 以上の 色彩
明度 5.0 未満 の場合の彩度値	3.5 以上の 色彩	6.5 以上の 色彩	7.5 以上の 色彩	7.5 以上の 色彩	8.5 以上の 色彩	8.5 以上の 色彩	8.5 以上の 色彩	6.5 以上の 色彩	3.5 以上の 色彩	2.75 以上の 色彩	2.75 以上の 色彩	2.25 以上の 色彩	2.25 以上の 色彩	2.75 以上の 色彩	2.75 以上の 色彩	3.5 以上の 色彩	4.5 以上の 色彩	3.5 以上の 色彩	2.25 以上の 色彩	1.75 以上の 色彩	1.75 以上の 色彩	2.75 以上の 色彩

## 建築物等のカラーガイド

### 代表的な色

上越の環境色彩に違和感のない色を選んで例示しています。

色彩選択に迷ったときにはこの欄の色の中から基調色を選ぶと、周辺のまちなみや自然の中から突出することなく、上越らしい落ち着いた景観を保つことができます。

### 限界の色

四季折々に変化する自然の彩りや、風情ある雁木のまちなみなどが特徴となっている上越市では、色の鮮やかさについて特に配慮が必要です。

ここでは上越の風景と馴染む色の鮮やかさを基準として示しました。建築物等の基調色は、この欄に示す色彩よりも鮮やかにならないように配慮してください。

また、この色よりも穏やかな色を使う際にも周囲をよく確かめ、周囲の景観を乱すことのないように配慮してください。

### 避けたい色

限界の色よりも鮮やかな色を示しています。この欄の色は、上越の景観の中にみられる色彩との差が著しく、周囲の景観に及ぼす影響が大きいため、建築物等の基調色としては避けたい方がよい色彩です。

豊かな自然景観の中に突如としてこのような色彩が現れると、建物ばかりが目立つと、市民の財産である自然の彩りが美しく見えなくなってしまいます。

また、まちなかでこのような色が使われると、その建物ばかりが目立ち、まちなみ全体の雰囲気は損なわれてしまいます。

	無彩色	赤 (R)	黄赤 (YR)				黄 (Y)	黄緑 (GY)	緑 (G)	青緑 (BG)	青 (B)	青紫 (PB)	紫 (P)	赤紫 (RP)		
<b>代表的な色</b> 海辺の地域 (明るく穏やかな色彩) まちなかの地域 (中庸の明るさ・鮮やかな色彩) 緑の多い地域 (明るさ・鮮やかさを抑えた色彩)	N9.0			5YR9.0/0.5	5YR9.0/1.0	10YR9.0/0.5	10YR9.0/1.0	5Y9.0/0.5	5Y9.0/1.0	5GY9.0/0.5	5G9.0/0.5	5BG9.0/0.5	5B9.0/0.5	5PB9.0/0.5		
	N8.5			5YR8.5/0.5	5YR8.5/1.0	10YR8.5/0.5	10YR8.5/1.0	5Y8.5/0.5	5Y8.5/1.0	5GY8.5/0.5	5G8.5/0.5	5BG8.5/0.5	5B8.5/0.5	5PB8.5/0.5		
	N8.0	5R8.0/0.5	10R8.0/0.5	5YR8.0/0.5	5YR8.0/1.0	10YR8.0/0.5	10YR8.0/1.0	5Y8.0/0.5	5Y8.0/1.0	5GY8.0/1.0	5G8.0/1.0	5BG8.0/1.0	5B8.0/1.0	5PB8.0/1.0	5P8.0/0.5	5RP8.0/0.5
				10R8.0/1.0	5YR8.0/1.5	5YR8.0/2.0	10YR8.0/1.5	10YR8.0/2.0	5Y8.0/1.5							
	N7.5	5R7.5/0.5	10R7.5/1.0	5YR7.5/0.5	5YR7.5/1.0	10YR7.5/0.5	10YR7.5/1.0	5Y7.5/0.5	5Y7.5/1.0	5GY7.5/1.0	5G7.5/1.0	5BG7.5/1.0	5B7.5/1.0	5PB7.5/1.0	5P7.5/0.5	5RP7.5/0.5
	N7.0	5R7.0/0.5	10R7.0/0.5	5YR7.0/0.5	5YR7.0/1.0	10YR7.0/0.5	10YR7.0/1.0	5Y7.0/0.5	5Y7.0/1.0	5GY7.0/1.0	5G7.0/1.0	5BG7.0/1.0	5B7.0/1.0	5PB7.0/1.0	5P7.0/0.5	5RP7.0/0.5
				10R7.0/1.0	5YR7.0/1.5	5YR7.0/2.0	10YR7.0/1.5	10YR7.0/2.0	5Y7.0/1.5							
	N6.0	5R6.0/0.5	10R6.0/0.5	5YR6.0/0.5	5YR6.0/1.0	10YR6.0/0.5	10YR6.0/1.0	5Y6.0/0.5	5Y6.0/1.0	5GY6.0/1.0	5G6.0/1.0	5BG6.0/1.0	5B6.0/1.0	5PB6.0/1.0	5P6.0/0.5	5RP6.0/0.5
				10R6.0/1.0	5YR6.0/1.5	5YR6.0/2.0	10YR6.0/1.5	10YR6.0/2.0	5Y6.0/1.5							
	N5.0	5R5.0/0.5	10R5.0/0.5	5YR5.0/0.5	5YR5.0/1.0	10YR5.0/0.5	10YR5.0/1.0	5Y5.0/0.5	5Y5.0/1.0	5GY5.0/1.0	5G5.0/1.0	5BG5.0/1.0	5B5.0/1.0	5PB5.0/1.0	5P5.0/0.5	5RP5.0/0.5
			10R5.0/1.0	5YR5.0/1.5	5YR5.0/2.0	10YR5.0/1.5	10YR5.0/2.0	5Y5.0/1.5								
N4.0	5R4.0/0.5	10R4.0/0.5	5YR4.0/0.5	5YR4.0/1.0	10YR4.0/0.5	10YR4.0/1.0	5Y4.0/0.5	5Y4.0/1.0	5GY4.0/1.0	5G4.0/1.0	5BG4.0/1.0	5B4.0/1.0	5PB4.0/1.0	5P4.0/0.5	5RP4.0/0.5	
<b>限界の色</b>		彩度 3.0	彩度 6.0	彩度 4.0	彩度 6.0	彩度 6.0	彩度 6.0	彩度 3.0	彩度 4.0	彩度 2.0	彩度 2.0	彩度 2.0	彩度 2.0	彩度 1.5	彩度 1.5	彩度 1.5
<b>避けたい色</b>																

※このパンフレットは印刷物のため、上記の一覧表の色彩は実物とは異なります。

※建築物等の色彩を決める際には必ず建材や塗料のサンプルで色彩を判断するようにしてください。

## 建築物等の色彩を考える際のチェックポイント

建築物等の色彩は個人のものであっても多くの人の目に触れるものです。そのため、色彩を考える際にはご自身の好みや目立つことばかりを優先するのではなく、周辺で暮らす人々や上越を訪れる旅人の視点に立って、よりよいまちなみになるよう考慮することが大切です。

1

景観の中で目立たせるものと目立たないようにするものの序列を考えましたか？

様々な要素が混在する景観の中で、生活の安全性や快適性を確保するために必要な交通標識や案内サインなどが目立つように考慮しましょう。また、歴史的景観資源やみどり豊かな自然景観地では、その場所の象徴となる建物や植物のみどりがより美しく映えるように、控えめな色使いを心がけましょう。

2

建築物等の色彩としてよく使われる[慣例色]を使用しましたか？

建築物の外装色には、慣例的に暖色系色相の中・低彩度色が多用されています。こうした[慣例色]は、よく見慣れた無難な色ですが、同時に長い時間の中で洗練されてきた建築外装にもっともふさわしい色でもあります。基調色は[慣例色]を基本に考え、アクセント等で変化をつけるようにしましょう。

3

周辺環境との連続性・共通性に配慮しましたか？

目立つことばかりを考えたひとりよがりな色彩ではなく、隣接する建築物等と色相やトーンをそろえるなど、周辺との連続性・共通性を考えた節度ある色使いを心がけましょう。ひとつの建物が目立つ景観ではなく、様々な要素が一体となってその場所らしさを醸成している雰囲気の良いまちなみをつくりましょう。

4

地域性・地区性(土地利用現況、用途地域など)に配慮しましたか？

建築物等の立地環境を考慮し、周辺の景観にふさわしい色彩を選択しましょう。公園や緑地などの自然地や歴史的建築物等に隣接した地域では落ち着いた色使いを心がけましょう。また、商店街や駅前などでは近隣が協力しあいながら、適度にぎわいを感じさせる色彩でその場所の特長を強化するようにしましょう。

5

建物各部位の色彩調和に配慮しましたか？

建築物は多様な部位によって構成されており、各要素がバラバラな色彩を用いたのではバランスのよい外観をつくり出すことはできません。各要素の色彩を個別に検討するのではなく、基調色と補助色の色相(色合い)をそろえるなど、外観の全体像をふまえ、トータルな視点で色彩を計画しましょう。

6

色彩のイメージや心理効果に配慮しましたか？また、イメージに偏重していませんか？

色彩にはそれ自体がもつイメージや心理的効果があるといわれています。色相やトーンを使い分け、建物の用途に見合ったイメージづくりを心がけましょう。一方、空をイメージした原色のブルーの屋根や植物の緑をイメージした派手な緑色の外壁など、イメージに偏重した短絡的な色使いは避けるようにしましょう。

7

耐久性・耐候性のある色彩・色材を採用しましたか？

色彩には汚れに強いものとそうでないものがあります。一般に明るく淡い色調や派手な色調は汚れやすく、退色の影響を受けやすいといわれます。どんなに素晴らしい色彩計画でも汚れたみすばらしい外観では困ります。最初から汚れに強い色彩を選択すると同時に定期的なメンテナンスを行いましょう。

## 色彩景観形成の事例

数多くの事業者のご協力により、上越の景観にふさわしい素敵な外観の建築物が整備されています。

